

bibliigare

まちなか図書館情報紙—[ビブリガール]

世界を広げ、まちづくりに繋げる
“知と交流の創造拠点”

まちなか図書館情報紙「bibliigare」とは
bibliは「本」、igareは「つながる」を意味し、
本を通して人、街に繋がる図書館をイメージした造語です。

特集1 図書館を通じた
まちづくり、ひとづくり

特集2 本とわたし
鈴木亜由子選手
突撃インタビュー

発行=豊橋市



まちづくり につながる 図書館へ

**豊橋で生まれ育ち、
世界で活躍する
鈴木亜由子選手に
とって「本」とは?**



今でも本を読むんですね

はい。最近だと、トレーナーさんから勧められていた。勝負に強くなる「脳」のバイブルを読んでいる。脳の仕組みを知ることでもう段上になれると書かれていて、実践している最中です。最近、役に立つ本を読むことが多いですね。嫌われる勇気は、キャプテンとしてどのようにしてチームを引っ張っていったらいいかと考えている時に参考になりました。線を引いて読んで、勉強してからミーティングに臨んでいます。

自分を高めていく本を読んでいるわけですか

そういったものが多いですね。常に自分を超えたいと思って陸上にも取り組んでいるし、そういう思いがあると何かを吸収したいと感じるようになりやすい。そういう面で本はすごく重要なツールですよ。本屋に行くと、必要だと感じても、ピンとくるものを選んで読んでいます。ただ、そういう類の本ばかりだと息が詰まってしまうので小説を読んだり、つい最近だと、チームメイトが読んでいた「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」も読みました。あまり偏ることなく、ホッとできる本も読んでみたりしています。

**鈴木さんには
活字離れという言葉は無縁ですね**

そうですね。自分が読みたいと思う本があれば活字でも嫌じゃないと思うんですよ。「こんな面白い本があったんだ」というきゅんかけがあればいいのかなと思います。難しい本じゃなくて、心が惹かれる本との出会い方が大切なんではないですか。

**豊橋のまち、未来について、
何かがあればお聞きしたいです**

豊橋はふるさとなので、まちなか図書館のような新しい試みがあるのが嬉しいです。帰るといつもホットするのはすごく嬉しいです。帰るといつもホットするので、そういった良いところは残しながらも、みんなが楽しめるような、また、従来とは違う新しい図書館を応援したいなと思います。今から楽しみにしています。

文学少女だったんですね

思い返してみると、そのころのほうが純粋に本も楽しめていたのかなと思います。今だと、何か自分にとってプラスになるものを読みたいと考えてしまうので。

**わたしの
「五四五八七」**

「豊川海軍工廠の悲劇」改訂版
編著 牧平興治
戦争、特に太平洋戦争に関する書物は敬遠して夏た。多くの体験記や映像資料は、夏の草いきれに似てあまりに「ベタ」と生臭いからだ。この書籍が他と決定的に違う点は、これまで見聞きしてきた惨状が、突然近所の出来事として再認識されたこと。

本とわたし

まちなか入りのお話を紹介。

長崎や広島に被ばくや沖繩戦、特攻隊やひめゆり学徒隊は知っていても、車で15分の場所へ起きた出来事は知らずに生きてきた。避けることのできなかった悲劇を体験した方たちと、その記憶を無意識に風化させてしまう我々の間に、語り継ぐ使命を受け警鐘を鳴らし続ける人たちがいる。
Ota & Brown x Kindo 代表
河合伸行
30歳の頃、工業界から製菓業へ転職。修業期間を経て2012年に豊橋駅前カフェ事業を開始。地域の情報拠点、交流スペースとしての喫茶店を目指す。2015年より1児の父として、パティシエの肩書も自認する。



**わたしの
「あなた」**

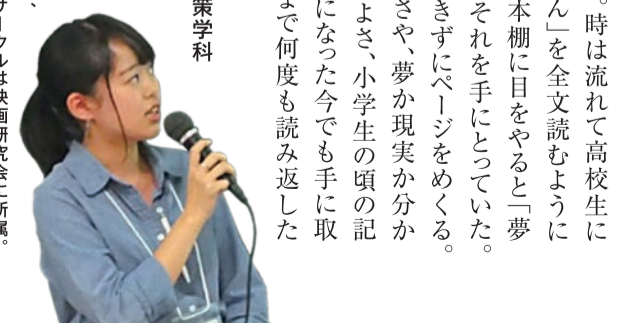
この小説は2017年日本公開のSF映画「メタセージ」の原作である。宇宙人が使う、人類には想像もつかないようなコミュニケーション手段の解明に挑む言語学者の話で、知的な刺激を与えてくれる作品だ。著者のテッド・チャンは、トリが鳴きあうことなどのようにコミニケーションを取っているのを知ったために、僕が以前所属していた東京大学の岡ノ谷研究室を訪れたこともある。身近な話題と、壮大なロマンがたががなが話に興味のある方には、この著者の作品はおすすめだ。



愛知大学文学部心理学科コース准教授
関義正
オウムやキウカンチヨウなどのトリが、南まね上手なのは何故かを探っている。この疑問の解明をヒントにして、ゆくゆくは、なぜヒトだけが言語を使う動物になったかを理解したい。

**わたしの
「夢十夜」**

小学生の頃、学習塾でこの本と出会った。夢という異空間を書いた文章に虜になったが、いつしかこの本は忘れられた。時は流れて高校生になると夏目漱石の「坊ちゃん」を全文読もうに言われ、図書館へ向かった。本棚に目をやると「夢十夜」が、無意識のうちにならぬ手に取っていた。家に着くまでの間、我慢できずにページをめくる。ぞくぞくとした薄気味悪さや、夢が現実から分らないふわとした心地よさ、小学生の頃の記憶がよみがえった。大学生になった今でも手に取り、同じ感情に浸る。ここまで何度も読み返した本はない。



愛知大学地域政策学部地域政策学科
まちづくりコース3年
野澤里菜
好奇心旺盛で楽しいことと面白いことが大好き。とにかくやってみようタイプで、ゼミでは豊橋のまちなかを研究し、サークルは映画研究会に所属。

**わたしの
「芸術の授業」**

芸術を教える事は可能なのか。あいちトリエンナーレ2016芸術監督の港千尋さん、豊橋でもプロジェクトを推進した作家の石田尚志さんをはじめとする、デザイナー、詩人、映画監督らが「芸術から学んだこと」について語った書籍である。アーティストとは、情熱的で、奇抜な行為をする人たちで、少し遠い存在に感じられるかもしれない。しかしこの本からは、良い意味で彼らの人間臭さを垣間みることができる。実は、豊橋の小さな飲み屋で肩を並べた陽気なお隣さんが、アーティストかもしれない。現在の作り手の声が開く一冊である。



アートコーディネーター
加藤慶
あいちトリエンナーレ2016豊橋会場アシスタントコーディネーター。まちなかから展開されるアートプロジェクトによって、鑑賞者と作品の間で、どのような相互関係が生まれるのかを探究している。

図書館を通じたまちづくり、ひとづくり

表現ワークショップ

トップ編集者から自分の思いや感動を人に伝えるコツを学び、まちの魅力を表現したい人を募りました。



作品例

洋風堂のあんぱんを知っていますか

小振り可愛らしく、甘さも素朴なあんぱんは、かつて豊橋駅のホームのキオスクで売られていた隠れた名物だったが、今はもう味わうことができないのが残念だ。大正5年創業のパンケーキのお店「洋風堂」(旧国鉄時代には駅で手売りされていたというあんぱんは昭和29年に二代目にあたるご主人のもとに嫁いだ高瀬志げさん手作りの味。生地をこね、前日に炊いたあんが冷めるのを待つから詰めるという作業を、毎日続けてきたそうだ。80歳を過ぎるまで健康そのものだった志げさんだが、3年前に突然の病で入院。退院後に店に戻ると、ケーキ担当の息子さんがパン作りの道具すべて処分していた。母の体を案じたことだった。心残りはいったが、息子に心配はかけず、と深く引退。多くのファンから「うてを手紙や電話をもらうだよ」と、元気に笑顔を誇らされた。あの味を懐かしむファンや度々味わてみたかったという人々と志げさんを囲んであの味を復刻する活動をぜひ実現したい。



谷埡由子

※その他の作品はホームページでご覧いただけます。「とよはしのシズンシップ」で検索

まちなか図書館 プレ事業

豊橋市では、まちなか図書館の開館前から目指すサービスを試行的に行い、新しい図書館の活動イメージを伝えていきます。大学で先端の研究をしている先生、まちなかで個性的な店づくりをする店主、豊橋の魅力を発信する若者など地域で活躍する人たちにスポットライトを当て、その活動を多くの方に知ってもらうたり、共感する仲間をふやしたり。将来まちづくりにつながる活動をする人のネットワークを広げていきます。



サイエンスカフェ

弱いロボットと鳥。コミュニケーションについて異なる視点から研究されている2人の講師と語り合いました。

bibligate コラム

ブックカフェ6次元店主 ナカムラクニオ

「本のあるまち」のつくり方
いま世界中で「本」をキーワードにした新しいまちづくりが、試されています。アメリカで始まり全世界に約2万カ所設置されているちいさな個人図書館「リトルブライブラリー」。イギリスのハイ・オン・ウェイにある「ブックタウン(本のまち)」、ドイツのまちじゅうに設置されたマイクローブライブラリー(まちなか図書館)など、その実験的な試みは各地で広がっています。

全体を「本棚」に見立て、まち全体を「文学」にし、すべての読者を「物語の主人公」にすることによって簡単に出来るのです。
本を使った「情報ピオトープ」
僕は、本を使ったまちづくりを「BOOK T.O.P.E (ブックトープ)」というキーワードで、呼んでいます。
「本を使った情報ピオトープ装置」のこと。ピオトープとは、Bio(生き物)とTops(場所)を合わせた造語で、ちいさな生態系を意味します。水草がたくさん生えている水槽の中で、メダカが餌も



「つながる図書館」をつくる
例えば、豊橋市内をフィールドワークして、空きスペースに「ちいさな本棚」を作るとしましょう。そうすると、本棚があることで「人の交流」と「物の交流」が生まれ、化学反応が起きます。本棚を作るだけで空間が活性化して、そのうち「小さな道」が生まれる。その道を育てていくのは、地元のみなさんの努力ですが、それほど難しいことはありません。
**本は未来を開く
どこでもドア**
本は、どこでもドア。開くと、未来つながっていき、未来です。これからの豊橋で、どんな新しい物語が紡がれていくのか、見届けていきたいと思っています。



まちなか図書館 シンポジウム

まちなか図書館が目指す方向性や果たすべき役割は?

平成28年8月6日(土)、「図書館を通じたまちづくり、ひとづくり」をテーマに、各地で本と人をつなぐ活動をしているの方々をお招きして基調講演、パネルディスカッションを行いました。

NPO法人 オフセリウム理事 hanajuku 代表 花井裕一郎
九州をはじめ全国各地で図書館づくり、まちづくりに携わる。
ないのに、ある。
目に見えないものでも、そこには物語や生い立ちがあります。それを紡いでいき、アーカイブしながらツールにしていける役割を図書館は担っていくことができます。
競争力ではなく、共創力
まちづくりは、競争力ではなく、共創力です。市民やまちなかの店舗の方々と手をつなぐだけではなく、ともにクリエイティブな活動を行うことが重要です。
協調性より、多様性
いろんな意見があつていいのです。傷をなめ合うより、反発し合って、光を見出す。面倒だと感じることを率先してやってみることが大切です。



京都府立図書館 司書 是住久美子
「しまるほんナビ」と「図書館員が調えた 京都のキモン」京都レファレンスマップ等のオンラインデータを作成。
まちに飛び出す司書
京都府立図書館では「しまるほんナビ」という、司書による学習グループにより、住民が自ら自分たちの地域のことをウィキペディアに掲載する「ウィキペディアタウン」というイベントなどを行っています。これからは、司書が積極的に図書館の外に飛び出す活動が必要になります。



雨の日 商店街
まちなかの店主がセレクトしたオススメ本を紹介する「まちなかライブラリー」を出展。

図書館(本) × ライブハウス

小説の朗読や生バンドによるJAZZが流れる空間で村上春樹ワールドを楽しみました。



sebone

駅南エリアがアートと音楽であふれる市民イベントでまちなか図書館をPR。



一箱古本市

本を売る人、本を贈る人、本を読む人、本がたがなになり、まちなかがにぎわう二日に。



まちなか図書館(仮称)の概要
●導入規模/4000㎡以内 ●導入予定位置/再開発ビルの東棟2階の一部、3階 ●蔵書数/10万冊程度(開架を基本) ●開館予定/平成32年度中を目指す
詳しい内容については、ホームページをご覧ください。
「豊橋市まちなか図書館(仮称)整備基本計画」 「豊橋市まちなか図書館(仮称)実施計画」で検索

新しい価値観をつくるのは「異業種」
図書館の中の人では思いつかないような突拍子もないアイデアが浮かぶのは異業種です。外側にいるからこそ言えることがたくさんあるのです。それをどんどん吸収するような空気感があるとよいですね。ソトモノ目線でもう一度この街の魅力を編集してみてもいい。
市はどう考えているの?
まちなか図書館では、新しい人との出会いや仲間づくりに繋げるためフアンリテーターなど会話を促すスキルを持ったスタッフの存在が重要です。また、運営面では、はじまる前からの取組を大切と考え、小さなことでも継続し、まちなか図書館で活動する人が生まれる環境をつくりたいと考えています。

